



Sabae Rotary Club

R | 第2650地区 2019-2020年度 鯖江ロータリークラブ

2019-20年度 国際ロータリーテーマ

2019-20年度 第2650地区スローガン

ロータリーは
世界をつなぐ



伝統と革新
世界はひとつ



鯖江ロータリークラブ会長方針

心で繋がろう

会長 清水 康弘

第2933回
6/12(金)

6月第2例会

点鐘: 12:45

テーマ 「ピンチをチャンスに」
(株)Ex SATOYAMA 代表取締役
卓話 山内 孝紀 様

第2934回
6/19(金)

6月第3例会

点鐘: 12:45

テーマ 「これだけは知っておきたい 相続税のこと」
増田公認会計事務所 代表
卓話 増田 仁視 様

第2935回
6/26(金)

6月第4例会

点鐘: 12:45

2019-2020年度
鯖江ロータリークラブ
最終例会

4つのテスト

- ① 真実かどうか
- ② みんなに公平か
- ③ 好意と友情を深めるか
- ④ みんなのためになるかどうか

6/12(金)
第2933回
例会報告

鯖江商工会議所 4階大ホール

会長の時間



清水 康弘 会長

カエル」と「かわず」の違いは？

賑やかなカエルの合唱が聞こえる季節となりました。昔このような言葉遊びがありました。さて何と読むのでしょうか。

“Full It Care. Cow Was To Become. Me Is Note”

お判りでしょうか？ 文法が間違っているとか言わないでください。お遊びですから・・・

答えは芭蕉の俳句「古池や 蛙飛び込む 水の音」です。そういえば私の祖父母はカエルのことをカワズと言っていました。カワズとはカエルの古語なのではないでしょうか？調べてみると万葉集にはカエルもカワズも両方詠まれているそうです。

広辞苑によるとカワズ・・・①カジカガエル②平安初期から混同されてカエルのこと・・・と 説明されています。カジカガエルについて調べました。

山地にある溪流、湖、その周辺にある森林などに生息する。鳴き声から和歌の題材になったり[5][6] (夏の季語[注釈 1])、また美声で唄う個体を「河鹿」と呼んで讃えることもあった。ペットとして飼育されることもある。江戸時代には専用の籠(河鹿籠)による飼育がされた。この事から芭蕉が詠んだカワズはカジカガエルのことだと言われているそうです。

では「井の中の蛙大海を知らず」はどうでしょう。生息地として人里の井戸にカジカガエルがいるのはおもしろい。カエルの間違いなのだろうかと思えました

がペットとして井戸で飼育したと考えれば間違っていないこととなります。

「井の中の蛙大海を知らず、されど空の蒼さを知る」という言葉は後の時代に日本で付け加えられたらしいです。確かに井戸の中の蛙は広い海があることを知らないが、井戸から見える空の蒼さなど、井戸の中の世界に長くいたからこそ見えるものを知っているという意味に変わります。「井の中の蛙大海を知らず」とは、「見識が狭い」「狭い世界のことしか知らない」というネガティブな意味ですが、「されど空の蒼さを知る」という続きが加わることで、「狭い世界にいるからこそ、その世界の深いところや細かいところをよく知っている」というポジティブな意味になると説明がありました。

ふと気づきました。カエルにしてもカワズにしても井戸にいたらその井戸は使えないのでは???

こんなことを考える私は、発想力が豊かな人間なんでしょうか？ それとも人の粗捜しをする根性の悪い人間なんでしょうか？判断は皆様にお任せします。

幹事報告



瀧ヶ花 秀見

次年度幹事

例会終了後、この会場に於きまして、次年度理事会を開催いたします。次年度理事・役員の方はよろしくお願ひします。

来賓紹介



ソーシャルベンチャー
(株)Ex SATOYAMA
代表取締役
山内 孝紀 様

福井県立大学地域経済研究所 客員研究員
(一社)
ジャパン伝統産業文化コミューティー理事

オンライン
ミーティング
参加会員
馬場 一彦 会員
大島 恒彦 会員
園 幸雄 会員
瀧谷 えみ子 会員

(株)Ex SATOYAMA 代表取締役

卓話

山内 孝紀 様

テーマ

「ピンチをチャンスに」



卓話者紹介 西尾 俊一 プログラム委員長

今日は、瀧ヶ花会員の紹介で山内孝紀様にお願
いしたところ、快く引き受けていただきました。山内
様は県立大学の地域経済研究所客員研究員、ジャ
パン伝統産業文化コミッティー理事など活躍され
ています。

卓話者 (株)Ex SATOYAMA代表取締役
山内 孝紀 様

テーマ 「ピンチをチャンスに」

■経済の構造転換

私達は、バブル経済の崩壊以降の30年に注目しております。この30年とと
もに未来を冷静に読み解きながら「ピンチをチャンスに」という事をプロジェ
クトの目標としました。Ex SATOYAMA地域創生プロジェクト 対象エリア

■越前水仙の里(越前町上岬地域)

越前水仙の里4集落は、梨子ヶ平・左右・血ヶ平・玉川です。なぜプロジェク
トに乗り出したのか。理由は現状であります。血ヶ平の1年半前の写真ですが、
水仙畑のはずが芝刈りしたように真っ平になっています。それは、シカ・イノシ
シの獣害で、越前岬から南は水仙がほぼ壊滅状態になっています。また、今年
の冬の河野・糠の国道305号線「すいせん快道」の写真ですが、現状は茶色
一色となっています。越前町の水仙切り花出荷本数は、最盛期の1989年と比
べこの30年間で1/5以下に減りました。根本的原因是過疎高齢化です。

・海岸線、特に水仙栽培の主力となる山腹集落で深刻化⇒既に耕作放棄地
が広範囲に拡大・栽培面積が広く、急こう配だけに獣害への対処も含めた維持
管理がマンパワー的に厳しいという現状です。

絶景水仙棚田も耕作放棄状態(昨年・夏)となっています。その背景として、
・急斜面での作業や冷たい冬場の水洗いは、高齢者の体には負担です。

血ヶ平集落の人口動態をみますと、1987年45世帯・120人が、2019
年には20世帯・30人(内13世帯は1人暮らし)となり、集落景観は当時のまま
ですが、大半が空き家で「水仙どころか、集落さえ、あと10年持つか・・・」と住
民は嘆いていました。

梨ヶ平「千枚田水仙園」でも、高齢化で管理が年々厳しく+獣害と自然災害
が重なる「三重苦」にみまわれ、「いつまで我々で維持できるか・・・」と不安に
なると住民が語っていました。

■経済の構造転換

地方の里山・里海の奥地をミクロで見ると大変な構造転換が起きていまし
た⇒人口の急激な都市部への移動(国内大都市圏、地方都市へも含む)＝
過疎高齢化⇒伝統的な生業が集落の営みとともにピンチにその一つが県花
・越前水仙の危機状態です。

■水仙の産業としての現状

・冬場の急斜面での過酷な労働(摘み取り+夜は水洗いと選別)・市場は晩秋
～年末に限定⇒単価も安く、収入は副業止まり・夏場は延々と草刈り⇒後継
者はなかなか現れずと、課題山積です。

次の担い手である移住者や若者のUターンをどう導くか

移住者1人をつくるには⇒交流人口20人増、関係人口1000人増⇒
その延長で、この地で生きていける「職」(収入)があることが必要です。ただ、
上岬地域の現状は…観光(民宿・旅館)、沿岸漁業、畑作+水仙が主で、期待
は「観光」ですが、越前岬水仙ランドや民宿、旅館いずれも苦戦しています。

■福井県立大学地域経済研究所の地域創生プロジェクト始動(昨年～)

まず、地域を本腰で再調査し、再発見活動をしました。そこで「ピンチだけど
チャンスはある」と確信し、春にコロナショックが起きるも、今秋から、町や集
落と連携し創生事業を本格始動しました。

「チャンスあり」と考える理由は、①内部環境(エリア)に「人がいる」という
強み②地域資源があるという強みと、ワールドワイドな外部環境的な機会
③大都市圏の企業等で起きている外部環境的な機会④行政機関に起きた内

部環境の強み⑤大学という内部環境の強みです。

チャンスありと考える理由① 「人」

○この逆境にあってもなお創生へ意欲と行動力ある住民の存在・血ヶ平 前区
長の山下さん夫妻(京都から定年後に帰福)・梨子ヶ平 区長の滝本さん(千枚田の
中心的な守り人、上岬地区を良くする会会長)・その他、地域全体が危機感を共有。
今は有効な打開策が見つからないけれど「何とかせにゃ」⇒危機感を背景に
まとまり・団結力

チャンスありと考える理由② 「資源」

○未開拓の海山の原風景の存在と、迫る新幹線・インバウンド時代(資源)・
100年超昔の姿をとどめる集落景観・日本海(若狭湾)の夕日などドラマチック
に変化する「西海岸」の景観・この景観の中で古くから息づく海と水仙の生
業・水仙以外にも、女性を引き付けるコンテンツである「ハーブ」

チャンスありと考える理由③

○働き方改革とITの進化に伴い、大都市圏の企業に地方へのテレワーク需
要が膨らむ・若い世代を中心に、大都市圏から地方への移住需要が膨らむ
(※この取り込みは鯖江が先行)

チャンスありと考える理由④

○越前水仙の重要文化的景観選定を機に、市町・県など行政機関との間に連
携機運が芽生える

チャンスありと考える理由⑤

○福井県立大学が地域経済学系新学部の開設を計画。開設を主導する地域
経済研究所内に、①～③に経済的可能性の手応えを感じる准教授の存在。⇒
研究フィールドづくりに向けた実証研究に位置付け

■チャンスの芽をリアルに

昨年秋～産学官民連携で、壊滅危機の絶景水仙棚田の再生着手(血ヶ平)
⇒プロジェクトのシンボルに行きます。

■獣害対策 + 担い手(交流人口増)

一步を大学の若い力とともに棚田再生で始動

■新しい「コト観光」の創出

大手旅行会社の観光開発プロデューサーと連携し、滞在体験型ツアーコン
テンツづくりへ実証実験など着手。つくられた観光空間ではなく、地域(4集
落)の海・山全体をテーマパークととらえた新しいツアーや飲食のコンテン
ツづくりを検討⇒キーワード「ありのままの地域資源」⇒偶然ながら「NO密」時
代にも対応していきます。

■関係人口増へ

越前焼など地域資源を組み合わせ、新しい経済を生む商品開発を研究。
HPなど発信手段も。できることから小さな一歩を踏み出す予定。⇒未来
は拓ける(チャンスあり)と信じています。

■地域創生

コンサルタントとして町や県と大学、地域をつなぎ集落の機能再生(古民家
利活用等)などさまざまな角度から地域創生事業を企画・準備中⇒目標は半年
後、1年半後のリアルな売り上げをどうつくっていくか(コロナを乗り越え)※越
前焼の里、その他県内外の知見・市場ともリンクさせ社会的な逆風の中でい
かに未来を築いていくか。逆境の地・越前水仙の里でのプロジェクトが皆さま
に少しでもヒントとなれば。

また、事業者として先輩の皆さまの連携とお知恵をいただけると幸いです。

ここにBOX報告

西尾 俊一	会員	山内さまの卓話をたのしみに
窪田 健一	会員	〃
岩尾 顕治	会員	誕生祝を頂いて
帰山 明朗	会員	久しぶりの例会嬉しいです。結婚祝いをいただいて
大橋 良史	会員	誕生祝いをいただいて
瀧ヶ花 秀晃	会員	結婚祝いをいただいて 卓話に期待して

